

自己評価報告書(最終報告)

報告者

現代教育課題総合コース
／谷村 千絵

■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

Ⅰ. 学長の定める重点目標

Ⅰ－1. 教育大学教員としての授業実践

本学の目的は、豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し、学校現場に送り出すことにある。このことを実現するには、教科専門・教科教育・教職専門等の各分野の授業が、学校現場の実践と関連性が保たれていることが必要である。あなたは、教員養成大学の教員として、本年度はどのような授業計画を立て実現しようとするのか、これまでの取り組み状況を総括し、具体的に示して欲しい。

1. 目標・計画

学校現場の実践では、ベテラン教員と新任教員のコミュニケーションが大きな課題の一つとなっているが、本学大学院の授業では、その構成メンバーの特色から、この課題解決を視野に入れた授業実践を試みる事が可能であると考え、ゼミなどの少人数指導の場では、とくにそうした点に配慮して指導を行ってきた。講義においては、シェアリングやグループワーク、感想の紹介など受講生同士のコミュニケーションが生まれる機会を多く提供し、他者の考えを傾聴すること、自分の考えを反省的にとらえることに重点をおいて取り組んできた。これらの取り組みは、いずれもコミュニケーションのハウツーを教授するものではなく、授業内容に即して、具体的な教育営為とともにある、学生個々の子ども観や人間観、そして、教育思想や教育哲学を掘り起こす作業として行われるものである。そのような反省的思考を共同で行うことが、学問や教育研究の基盤であるということ、そして、教師と子どもとのかかわり、教師間のかかわりの基盤でもあることを、本年も授業を通して学生に伝えていきたい。

2. 点検・評価

目標と中間報告に記述した通り、前期の「現代の子どもと学校教育」および「情報教育総論」、「情報教育特論Ⅲ」、そして後期の「情報教育特論Ⅰ(教育情報人間論)」、「総合学習総論」、「総合演習」において、同様のポイントに力点をおいて授業を実施した。なかでも、「情報教育特論Ⅰ」では、例年文献購読を行っているが、本年度は、一冊の本を全員で丁寧に読み進めて、ディスカッションを行うために、あらたなワークシートの導入やグループワークを取り入れ、単なるレジュメ発表に終始しない工夫を試みた。協働的な学習が生じていたし、その深度も例年以上であった。また「総合演習」では、絵の描画と相互評価という手法により、素朴なアイデアやその表現方法の多様性に出会い、また、他者と相互にコメントを付与しあうことの面白さや難しさを実感してもらえたのではないかと手ごたえが特にあった。学生から「もっとやりたかった」「楽しかった」「とても刺激になった」との感想が寄せられた。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ－1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

授業に関しては上に同じ。
コース内の修士論文構想発表会(4月)の方法を新しくする企画をコースに提案したので、それを実施するとともに、実施後の反省を行い、今後、よりよい形となるように練り上げていく。
学生生活支援は、学生からの生活相談、進路相談等に個別に応じ丁寧な対応を心掛ける。
教員採用試験対策について、求めに応じて面接や小論文の個別指導を行う。

2. 点検・評価

授業に関しては上に記述した通り。
コース内の修士論文構想発表会(4月)の方法を新しくする企画をコースに提案し、それを実施した。
また実施後に全員にアンケート調査を行い、来年度の改善点を抽出し、新年度の企画に反映することができた。
学生生活支援は、学生からの生活相談、進路相談等に個別に応じ丁寧な対応を行った。セクシャル・ハラスメント(学生間、一件)、アカデミック・ハラスメント(2件)と考えられる事態への早期対応を行い、事態の収束を見届けた。
教員採用試験対策について、求めに応じて面接や小論文の個別指導、申請書類のチェック等を行った。

II-2. 研究

1. 目標・計画

再年度に申請した科研費が取得できれば、その研究計画にそって研究を進める。
取得できなかった場合は、研究計画をあらたに見直し、部分的に着手するとともに、再び申請する。
道徳に関する共同研究について、成果を発表する。
オートポイエーシス論の読書会の研究成果を何らかの形で発表する。

2. 点検・評価

コース内の修士論文構想発表会を新しい形式で計画・実施後(2011.4.23)に、参加者全員にアンケート調査を行い、現職教員院生には個別のインタビュー調査を行った。
調査結果をまとめて、日本教育大学協会研究集会(2011.10.15. 於高松)にて、発表を行った(コース教員の共同発表)。
また、考察をさらに深めて『鳴門教育大学授業実践研究』に論文を投稿し、受理された。
道徳に関する論文を、メディア、人とのかかわり、オートポイエーシスという観点からまとめて、脱稿した。2012年秋に出版予定。
科研費の取得・申請はかなわなかったが、それ以上の研究成果をあげたと考える。

II-3. 大学運営

1. 目標・計画

担当した委員会の業務を積極的に遂行する。
創立30周年記念行事の式典委員を務めるので、行事の成功に貢献する。
コースでの会計を担当する。
学内の美化、清掃、節電を心がける。

2. 点検・評価

創立30周年記念行事の式典委員を務め、行事の成功に貢献すべく努力した。
鳴風会幹事を務めた。
コースでの会計を担当し、年度末の予算の計画的使用に貢献した。
学内の美化、清掃、節電を心がけた。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

附属学校の授業研究会等の行事、国際交流の行事等に積極的に参加する。

2. 点検・評価

教育実習にあたって、コースの所属院生(長期履修生)が配属された小学校、中学校(附属学校含む)8校と、コース教員の予定とを調整し、実習期間中にコース教員全員で分担して全校に挨拶・視察に回る計画を立て、実施した。附属小学校での教育実習における評価授業の参観を行った。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)